

九州ダービー

第57回

栄城賞 (優勝賞金500万円) (ギンシャサノキセキ賞)

九州ダービー栄城賞は、日本ダービーが終了してからおよそ2時間後にスタート。ダービー6連戦の開幕は、日本中から熱視線が注がれる。

注目の競走馬



ゴールドドラマ

父 ルースリンド

母 ミスヒテン

母父 ダンスホール

馬主 馬場 三四郎

調教師 西久保 政等

生産者 中田 浩美

注目点 7月に

門別でデビュー戦

を勝ったが、その後

の成績は善戦止まり。

佐賀移籍後も同

様の成績が続いて

いたが、今季2戦目の有田焼特選(3歳1組)では、4角先頭から後続を7馬身も突き放す圧巻の勝利。その瞬発力は九州ダービーでも注目できる。

キングプライド

父 サウスヴィグラス

母 アイディアルクイン

母父 アスワン

馬主 深川 一清

調教師 土井 道隆

生産者 長谷部牧場

注目点 8月の

デビューからしばらく

低迷したが、昨秋

以降から本格化。

古馬C級と初対戦

した4月12日のレ

ースを5馬身差で勝ち、続く5月3日の古馬C級戦も9馬身差で勝利。母は2000年の九州大賞典などを制したアイディアルクインで、当地に縁がある血統だ。

イッセイイチダイ

父 ヴァーミアン

母 ホッカイチンフォア

母父 フォーティナイター

馬主 藤木 敏則

調教師 東 真市

生産者 若林 武雄

注目点 7月の

デビュー戦を勝ち、

秋にはJRA認定戦

と重賞の九州ジュ

ニアチャンピオンを

連勝。今季は5か月

の休養明け初戦を古馬B級相手に勝利して、続く2戦目は5着。それでもこの世代の佐賀所属馬における潜在能力には、トップクラスのものがある。

コース紹介

佐賀競馬場

2000m

右回りコース

1周1100m

幅19~24m

ダービー出走可能頭数12頭



スタート



コース 1周1100mの右回りで、高低差は1mとほとんど平坦。九州ダービーのスタート地点は2コーナーの奥で、ゴールまではコーナー6回。最後の直線は200mとなっている。佐賀競馬場の砂はほかの競馬場に比べて粒が大きく、パワーがある馬のほうが有利という傾向がある様子。以前よりインコースの砂厚はやや薄くなっているそうだが、それでもインコースを少し空けて走る姿が特徴的な競馬場だ。

アクセス 鹿児島本線の鳥栖駅から路線バスで15分程度だが、バスの本数は1時間に1本。事前に発車時刻を検索してから向かいたい。また、タクシーだと鳥栖駅から2000円前後、九州新幹線の新鳥栖駅からは1500円前後で到着できる。佐賀競馬場には広大な無料駐車場が用意されているので、自家用車またはレンタカーで向かうという方法もある。

単勝	○	枠番連複	○	馬番連複	○	ワイド	○	3連単	○
複勝	○	枠番連単	×	馬番連単	○	3連複	○	重勝式	○



ダービージョッキーに聞く!

ダービーの思い出

九州ダービー栄城賞

長田進仁騎手

長田騎手は2011年に九州ダービーを勝利。「あのときのコスモノーズアートは最内枠でしたし、レース前はスタートを決めようと思っていたら、強い馬が出遅れたんですよ。そのおかげで流れが向いた感じがありましたね」と、5番人気での優勝を思い出して笑顔を見せた。

「佐賀は乗りかたによって変わる競馬場。まして3歳馬の2000mは、先行馬にとってはよほど力を持っていないとキツイコースだと思います。あの勝利は、いま振り返ってもいい競馬だったなあと思いますね。ダービーはやっぱり格別です」と、ダービーを2度制している長田騎手でも、また勝ちたいという思いをもっている。

「ダービーは馬との巡りあわせはもちろんですが、運という要素も大きいと思います。1回目に勝ったときは本命馬で硬くなりましたが、2回目のときは気楽なもの。それもよかったです」
タフな馬場で行われる九州ダービーは、各馬の力関係とともに、騎手の思いを推理することが、重要な予想ポイントになるのかもしれない。

第56回 九州ダービー栄城賞

2000m/11頭/佐賀
2014.6.1/晴良

順	種	馬名	所属	性	年齢	騎手	調教師	タイム	着差	人気
1	⑦	⑨ オールラウンド	高知	牡	56	田中純	別府真	2.13.9	⑦	
2	⑥	⑥ テッド	佐賀	牝	56	竹吉徹	山田義	1½	⑩	
3	⑧	⑪ マサヤ	佐賀	牡	56	山口勲	東眞市	½	①	
4	⑤	⑤ セリオ	佐賀	牝	54	鮫島克	九日光	アタマ	⑥	
5	①	① ミスタージャック	佐賀	牡	56	吉田順	東眞市	½	②	



第56回(2014)オールラウンド

レビュー 連勝中のマサヤが1番人気。しかし飛燕賞、花吹雪賞、ル・ブランタン賞優勝馬が不在というメンバーは混戦模様で、流れはオーバーペースの様に。その展開を味方につけたのが高知所属のオールラウンドで、後方2番手からの大まくりを炸裂させた。2着も後方から差を詰めたテッドが入線。馬単、3連単が6桁相当の大波乱になった。

第55回 DATA 2013

佐賀/2000m/11頭/2013.5.31/曇稍重

順	種	馬名	所属	性	年齢	騎手	タイム	着差	人気
1	⑥	⑦ ダイリングローバル	佐賀	牡	56	山口勲	2.13.2	④	
2	⑦	⑨ ゴールドペンダント	佐賀	牝	54	吉田順	1½	②	
3	②	② ムラサキコマチ	佐賀	牝	54	川島拓	1½	⑦	

第54回 DATA 2012

佐賀/2000m/10頭/2012.6.1/曇良

順	種	馬名	所属	性	年齢	騎手	タイム	着差	人気
1	④	④ エスワンプリンス	佐賀	牡	56	鮫島克	2.13.5	①	
2	⑧	⑩ ダイリンウィーク	佐賀	牡	56	山口勲	8	②	
3	⑦	⑨ レコバン	佐賀	牝	54	石川慎	3	⑤	

第53回 DATA 2011

佐賀/2000m/12頭/2011.6.6/曇良

順	種	馬名	所属	性	年齢	騎手	タイム	着差	人気
1	①	① コスモノズアート	佐賀	牡	56	長田進	2.11.3	⑤	
2	②	② リネンハイブリッド	佐賀	牡	56	田中直	½	④	
3	⑤	⑥ リョウマニッポン	佐賀	牡	56	倉富隆	4	⑦	

単勝人気別成績

※過去9年間のデータを分析

単勝人気	成績	勝率	連対率	3着内率
1番人気	4-1-1-3	44.4%	55.6%	66.7%
2番人気	0-2-3-4	0%	22.2%	55.6%
3番人気	1-3-0-5	11.1%	44.4%	44.4%
4番人気以下	4-3-5-63	5.3%	9.3%	16.0%

レポート 九州ダービー栄城賞を制したのは、単勝1番人気馬、または4番人気以下が大半という、やや極端な成績。2番人気馬の勝利はゼロだが、3着内率は5割以上となっているのも特徴的だ。昨年は7番人気馬が勝ち、2着には10番人気馬が入線。今年も波乱となる可能性は十分ある。

前走の着順別成績

※過去9年間のデータを分析

前走の着順	成績	勝率	連対率	3着内率
1着	5-4-3-23	14.3%	25.7%	34.3%
2着	1-1-1-8	9.1%	18.2%	27.3%
3着	3-3-1-7	21.4%	42.9%	50.0%
4着以下	0-1-4-37	0%	2.4%	11.9%

レポート 前走の着順別に成績をみると、前走を勝利して臨んだ馬の成績が良好。しかし前走が3着だった馬がかなりの好成績を残しているのは、注目すべきデータだといえる。ちなみに、前走4着以下から巻き返して連対したのは、9年前のワンバクメロ(前走7着)のみとなっている。

サンデーサイレンス系以外の産駒が中心

※過去9年間のデータを分析

年度	着順	馬名	種牡馬名
07年	1着	ナンブラックワン	ストロースクリーク
	2着	ギオンパワー	キャプテンステイヴ
08年	1着	オリオンザナイト	オリオンザサンクス
	2着	フサイチサガントス	タニノギムレット
09年	2着	グランシング	マリエンバード
10年	1着	メイオウセイ	クリストワインング
	2着	コスモノズアート	ノーリーズン
11年	1着	リネンハイブリッド	ストラヴィンスキー
	2着	エスワンプリンス	アジュディケーティング
12年	1着	ダイリンウィーク	スターリングローズ
	2着	ダイリングローバル	ホワイトマズル
13年	1着	オールラウンド	パーソナルラッシュ
	2着	テッド	レギュラーメンバー

レポート もともと九州ダービー栄城賞には、サンデーサイレンス系統の父をもつ馬の出走が少ないのだが、現在の競馬界の流れを考えると、ちょっと特異な傾向であるといえそう。佐賀競馬場のこの舞台はそれだけ「切れ味」より「パワー」が重要であるということなのだろう。



第55回(2013)ダイリングローバル



第54回(2012)エスワンプリンス